農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

貝塚市長

市町村名 (市町村コード)	貝塚市 (272086)
地域名 (地域内農業集落)	蕎原 (蕎原)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年12月10日 (第1回)

注1：「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載して

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

<p>・アンケート結果について 稲作が盛んな地域である。 13%の農業者が80歳以上の高齢者である。 現状耕作していない農地が19%、保全管理のみが9%、10年後「売却したい・委託したい・貸し出したい」農地が30%となり、農地の保全・管理が課題となる。 担い手の確保・育成が課題である。</p> <p>・農地、農道について 農地の大部分が棚田であり、1枚当たりの農地面積は小さくいびつである。 石垣で区切られている農地が多く、管理や農業用機械の導入が難しい。 トラクターなど農業用機械の侵入ができない狭い農道がある。</p> <p>・水利関係について 川から水を引いており、豊富な水を使うことができ、池も4つあるため水は豊富である。 人手不足により水路管理が難しくなっている。</p> <p>・その他について 「イノシシ」による鳥獣被害が多い。</p>
--

(2) 地域における農業の将来の在り方

<p>・地域作物について 水稲が多く、その他畑作では水はけが悪い農地などでさといもを栽培している。</p> <p>・栽培、承継等について 古くから特産として「しいたけ」が栽培されており、現在「しいたけ」農家は少なくなったが継承されている。 今後も大きく管理しやすい農地などについては、水田として活用していく。 その他、水はけのよい農地については、果菜類等の畑作物を作付し所得向上を図り、水はけの悪い農地では、「さといも」等の畑作物を作付していく。</p> <p>・その他課題について 今後担い手不足、後継者不足が懸念されるので地域コミュニティの活性化のためにも、「結」で農地を管理していく。</p>
--

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	18.5 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	18.5 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積) 【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農用地については農業上の利用が行われるものとする。

注：区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集約化の方針

大部分が棚田で集積・集約化は難しいが、農地中間管理機構や農地法第三条による貸借を活用して、地域内の認定農業者や新規就農者を中心に集積を進めるとともに、その他の担い手への農地集積も進める方針。

(2) 農地中間管理機構の活用方針

現在はほとんど利用していないが、今後担い手へ集積・集約していく際は積極的な活用を検討する。

(3) 基盤整備事業への取組方針

大部分が棚田であり、まとまった農地がなく、面積的にも基盤整備事業の活用は難しい。

(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針

地域の認定農業者や今後中心的な担い手となる4Hクラブなどと府・市・JAなどの関係機関が連携し、経営体の確保、育成に取り組む。

(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針

現在行っている農作業受託については継続して活用する。

以下任意記載事項（地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください）

☐	①鳥獣被害防止対策	☐	②有機・減農薬・減肥料	☐	③スマート農業	☐	④畑地化・輸出等	☐	⑤果樹等
☐	⑥燃料・資源作物等	☐	⑦保全・管理等	☐	⑧農業用施設	☐	⑨耕畜連携等	☐	⑩その他

【選択した上記の取組方針】